

課題探究的な学習の指導展開例（本時）

特別支援学級 自分に対してーがまんのしかた  
 内容項目 A 善悪の判断・自律・自由と責任  
 資料名 「がまんって どういうこと」  
 本時のねらい  
 目に見えない『がまんをする』ということ、ゲームを通して体験したり、具体的な場面を絵で表したりして、がまんというのはどういうことかを考えさせ、場の状況を理解し、どのように行動することが自分や集団にとってよいのかを判断し、自分の人生と集団生活の充実に努めようとする実践意欲と態度を育てる。

**子どもの学習活動**

○ がまんについてのイメージを膨らませる。

いい姿勢を続けることは大変だよ。

勉強中は勝手に話したり立ち歩いたりしたらだめだよ。

○ ゲームを通して、がまんで体験する。  
 1. イスからおしりを少し浮かせ、誰が1番座らないか『がまん対決』をする。  
 2. 先生とどれだけ長く目を合わせていられるか対決する。途中テレビが付いたり、物が落ちたりするが、先生を見続ける。

がまんすることができたよ。

がまんって大変だね。

○ ワーク1 「がまん」ができていない子はどの子でしょう。  
 ・ワーク1（教室のがまんでしていない子が描いてある絵）を見て○を付ける。

どうして、がまんは必要なのかな。

	じぶん	みんな
できる	話が分かる 時間が余る	集中できる 話が分かる
できない	話が分からない 失敗する	うるさくなる 時間がもったいない

がまんは自分のためにも、みんなのためにも必要だね。

○ ワーク2 こんなときどうする。  
 ○ ワーク3 がまんするとどうなる。  
 ○ ワーク4 がまんしたことあるかな。  
 ・ワークシートに記入する

○ 振り返りを書く  
 ・気持ちメーターに○を書き、今日のまとめと感想を書く。

○ 感想を発表する

がまんできたよ

がまんでしようと思う

がまんを見つけたよ

**セルフチェック1**  
（興味・関心・疑問）  
 目に見えないがまんで体験することで、より具体的に想像したり、考えようとしたりする意欲を高める。

**セルフチェック5**  
（多面的・多角的に考察）  
 『がまん』についての理解を深めるために、『がまん』の必要性について改めて考えることで、より具体的に今までの経験やこれからのことを想像して考えることができるようにする。

**セルフチェック6**  
（学びのよさを実感し、次の課題に向かう）  
 学んだことを使って、いろいろな場面ですいたらよいか考えることで、今後の生活に生かしていけるようにする。

**【評価】**  
 がまんですることの必要性について考えることができています。  
 （記述、発言）

[子ども一人一人の学びが深まった姿]  
 場の状況を考えた時、周りの人のためにも、自分のためにも、がまんでしなければいけないということを考えて判断しなければいけないということに気付いている。